

英語の

広島大学大学院教授 新田玲子

正しい学習方法とは

＜前編＞

英語と聞いただけで、頭が痛くなる方も多いのではないのでしょうか？ 学生時代の辛く、悲しい思い出がある方のために、今号と次号の2回に分けて、「英語の正しい学習方法とは」を特集します。

お話しいただくのは、広島大学大学院でアメリカ文学を中心に研究され、「英語を使うアメリカ文学はみなさんを馴染みのない世界へと誘い、そこでの新鮮で異質な体験を通して、みなさんの人生の選択肢や可能性を広げてくれるでしょう」と説く新田玲子教授です。

略歴：広島生まれ。広島大学文学部卒業後、広島大学大学院文学研究科博士課程へ。広島経済大学講師、信州大学人文学部助教授、同人文研究科助教授を経て、広島大学文学部助教授に就任。同文学研究科教授に就任。

主な著書：『サリンジャーなんかこわくない』（2004）、『アメリカ映像文学に見る少数民族』（共編著（1998年）『すべての夢を終える夢』（翻訳、ウオルター・アビッシユ原作）（2001年）など

1. 今日の英語教育

「すべての道はローマに通じる」のことわざのように、繁栄を極めた古代ローマ帝国ではローマに至る道が無数に存在し、どの道も最終的にはすべてローマに到達したのかもしれない。しかし英語を学ぶ道はあまたあっても、必ずしもすべての道が英語の完全習得に至るわけではありません。むしろ初期に誤った道に進んだが故に、英語がうまく使えず嫌いになるだけでなく、一見、英語上手に見えて、生涯、正確な英語運用能力を身に付けられないで終わる人は、想像以上に多いのが現実です。

今日の英語教育は、国民の誰もが簡単な英会話くらいできる国にしたいという、国の指導者や文部科学省の方針のもと、読み書き中心から会話中心へと、質的転換を遂げています。おかげで昨今の日本人は、外国人に話しかけられても無闇に逃げ出すことはないのかもしれない。その一方で、大半の人が片言英語から抜け出せないでいるのも事実です。このことは、残念なが

ら、私が教えている英米文学語学専攻コースへ入ってくる学生たちにも当てはまります。もちろん、英語を専攻している学生ですから、平均的な日本人よりは英語を使えるのですが、その大部分は生涯、英語を完全に習得できなまま終わってしまいます。その元凶となっているのが、会話中心の英語教育なのです。というのも、初習段階で日常会話中心の教育を施されると、英語を正確に理解しなくとも、おおよそのところがわかればなんとかかなるといって、悪い癖がついてしまうからです。

I am tired from playing with my nephews.

I am tired of playing with my nephews.

この二つを、「tired」を使った次の二つの例文で見比べてみましょう。
「tired」は前置詞が「from」の場合は、肉体的な疲労という意味で「疲れて」いるのに対して、「of」の場合は精神的な疲労を表し、「うんざりした」といった意味になります。書き言葉の場合は、こうし

た前置詞による意味の違いを正確に押さえていないと、実際に甥の相手をしてやり、「甥と遊んで疲れた」のか、以前に甥と遊んだことがあったり、今、遊んでやったりしながら、「甥と遊ぶのにうんざりしている」のか、読み取れないこともあります。しかし、会話では状況がもっと明白ですし、相手の表情や身振りから、肉体的に疲れているのか、精神的に疲れているのかは簡単に推測できます。従って、二通りの意味があることさえ知っていれば、どちらであるか判断に迷うことはありません。言い換えるなら、「I'm tired」、「play with nephews」といった単語を並べただけで、文法的に完成されていないことも、表情や身振り手振りで意図を正確に伝えることができます。

もちろん、ここで挙げた例文のような、前置詞の違いによる意味の違いは、今日の学校教育でも教えられています。実際、こうした文意の明確な違いは記号で答えさせやすく、いわゆる「試験に良く出る英語」になっています。それ故、こうした日常会話レベルの単純な英単語や英熟語、英文の記憶量を増やし、入試や英語検定試験で良い成績を取れるようになることが、英語の完全習得であるという誤解を招いてしまいます。もちろん、こうした基本定型文を定着させる訓練を疎かにするつもりはありません。しかしそれだけで終わってしまうえば、意味にブレのない単純で表面的な会話しかできないということに、ほとんどの人は気付いていないように思えます。

英語の初習教育が日常会話レベルの単純な表現に限られていることの弊害は、辞書の引き方にも現れています。日常会話英語では必要とされる英単語や英熟語が限定され、その意味も電子辞書で示される意味範囲の、しかも多くは最初の方に出てくる、基本的なものとなりがちです。その結果、一見英語が上手に見えるように見える人でも、辞書の冒頭に書かれた訳語を考えなく用いる癖がついています。自分が使おうとする日本語で、日本文としての意味が成立するかどうか、英文が示す状

況を十分表現できているかどうか、考
えようとはしないのです。

◀ 英語は日本語と成り立ちからして異
なる言語ですから、一見同じような場
面で使われる語句でも、意味の広がり
や性質が大きく異なっているのは当た
り前のことです。従って、英語の辞書
を引くときには、発音記号や品詞を確
かめることはもとより、その語が本来
どのような意味の広がりを持ち、どの
ように入用されるのかを、用例を参照
しながら確認してゆかなければなりま
せん。そのうえで、辞書に出ている訳
語を参考にしながら、書かれている英
文にもっともふさわしい日本語を、自
身の日本語の語彙の中から探し出して
初めて、当を得た訳文になりえるので
す。

ところが、最近の大学入試や入社
試験では、正確な英文和訳や和文英訳を
古い形式の問題として斥け、英文の理
解力を計るには要約問題を、表現力に
は自由作文を課する傾向にあります。
また、あえて英文和訳や和文英訳で異
なるレベルの英語能力を問おうとする

個別試験でも、成績結果に差を出すた
めに部分点方式が採用され、和訳にお
いて英文の全体の意味が取れていなく
とも、また英訳において書かれた英文
が意味をなしていなくても、英単語や
その意味が並べられていればある程度
の点が入る仕組みになっています。そ
れ故、短期間で点数を幾らかでも上げ
たいという入試対策では、根底から英
語を鍛え直し、正確に英語を理解する
という、長く困難な道のりをたどるよ
りも、知っている英単語の意味をつな
いで文章を想像したり、わかる範囲内
の単語を取り敢えず並べたりといった、
小手先の対策強化で誤魔化してしま
がちなのです。

◀ このように、今日の英語教育が話し
言葉に偏重し、英語の検定試験成績が
重要視され、大学入試や入社試験もそ
うした流れを反映させているため、会
話レベルの英語学習——すなわち、八
割方わかれば推測できる文意、あるい
は、単語を並べただけで通じる英語が、
時代の趨勢となっています。しかしこ
うした英語力では、話の内容が予想外

の方向に展開する場面では通用しませ
ん。言い換えるなら、その程度の英語
力では、私たちの想像や理解の枠を超
えた「異文化」との交流、本当の意味
での「異文化コミュニケーション」は、
不可能なのです。

◀ 私の学生には、「外国人との交流が
好き」とお気楽に公言してはばからな
い学生が少なくありませんが、私には
そのような学生がとてなイーブに映
ります。日本人同士でも、ひとりひと
り皆、考えや性癖、家の事情や土地の
習慣に、差があるものですが、国が違
い、文化・社会・宗教背景が異なる人々
とのギャップは、時に想像を超えるほ
ど大きいことがあります。だからこそ、
彼らの「異文化」は私たちの興味を掻
き立て、胸を躍らせるのですが、その
一方で、ほんのちよつとしたことが深
刻な誤解を引き起こし、大問題となる
危険を孕んでもいるのです。従って、
諸外国の人たちとの交流では、物事を
自分の推量に任せたり、自分の尺度で
測ったりするのではなく、他者に開か
れ、他者の立場で思考できる柔軟性と、

他者とのコミュニケーションのよすがとなる正確な英語が不可欠となります。

英語がもたらす「異文化コミュニケーション」とは、私たちの思考形態や想像の枠を超えた人々との意思疎通を意味します。彼らの言動を、彼らの視点に立って正確に把握する一方で、私たちの考えや主張を正確に伝えるには、推量や想像に頼らない、百パーセント厳密な英語運用ができなくてはなりません。しかし残念なことに、現在の英語教育や社会の要請は、こうした本当の意味での英語力を育て上げる姿勢から、どんどん遠ざかっているのです。

2. 日常会話レベルの英語を

効率よく学ぶ方法

日常会話レベルの英語は、英語の基礎をしっかりと固めていけば、短期間の訓練でものにできると、私は信じています。これは私の経験則によるものです。私の子供時代、国公立の中等教育では会話の訓練はほとんどありませんでした。私も見事なほど会話訓練を受けないまま大学に入り、外人教師の授

業で初めてネイティブの英語に触れて、初回の授業では暗澹なる思いを抱きました。そこで、急遽、大学の授業とは別に英会話学校に通い始めました。当初は下から二番目の初級クラスに振り分けられましたが、数回のテストを経、一年後には、最上級のクラスで自由会話を行っていました。外国人教師による授業も、Aが取れなかったのは学部一年生の前期だけでした。

これに対し、私は長年、大学でアメリカ文学を教えてきましたが、英会話が達者に見えても、英語の基礎がよい加減な学生の場合、到底一年やそこらで英語を基礎から鍛え直して文学作品を読めるようにしてやることはできません。英語の基礎を叩き込むのに時間がかかるというより、すでに身についた悪癖を修正するのに時間を取られてしまいます。それ故、私は英語の初習段階でもっと読み書きを大事にし、発音記号や文法事項を含め、英語の基礎を鍛えておくべきだと考えるのです。とはいえ現実には、会話中心の定型文を覚えるところから入る英語教育

が行われていますし、机に向かつてつこつと学ぶ根気のいる学習方法ではなく、楽しく学ぶことも可能なこの種の英語教育には、誰もが参加しやすいという利点があります。そこで次に、こうした教育を受けて育ち、上述したような真の「異文化コミュニケーション」ができる必要はない、サバイバルのための、ちよつとしたコミュニケーションが英語で取ればよい、と考えていらつしやる方々に、これまでの学校教育の英語を活かすにはどうしたらよいか、お話することにしましょう。

最近幼稚園、小学校から英語を学んでいるようですが、そうでない方も大半の場合、中学校・高等学校と、あわせて6年間、ひよつとしたら大学の教養課程でさらに2年間、英語を学んでこられたのではないのでしょうか。とするなら、かなり英語の苦手な人でも、日本語が「私は日本語を話します」と、動詞が最後にくるのにたいし、英語は「I speak English.」と、主語のあとにすぐ動詞がくることを意識されているはず。また、動詞には「です」

「ます」にあたるbe動詞と、動作そのものを一語で表す一般動詞があること、be動詞の疑問文は、「You are a hard worker.」が、「Are you a hard worker?」となるように、主語と動詞を逆にするだけなのに対し、一般動詞の場合には、「You work till late.」が「Do (Can, Will) you work till late?」と、助動詞と呼ばれる「do (does)」、あるいは「can」や「will」を伴うことも、なんとなく言われれば、ああそうだなと思えるのではないのでしょうか。加えて、名詞には冠詞と呼ばれる「a」とか「the」、とかが付くこともあるとか、前置詞「at」「in」「of」「to」といったものが、場所や方向を示したりするために使われるとかいったことを漠然と理解されていたら、上出来です。というのも、この程度の基礎知識があれば、日常会話レベルの英語を学ぶのに不足はないからです。

You are a hard worker.

→ Are you a hard worker?

You work till late.

→ Do (Can, Will) you work till late?

「え？ そんな曖昧な基礎知識で足りるのか？」と思われるかもしれませんが、足りるのです。極端な話、この程度の知識で英検1級、TOEIC満点も不可能ではありません。そして、それが英語学習者を会話に閉じ込めてしまいう陥穽でもあるのですが、今は、日常の会話英語で十分とされる方々のお話ですから、敢えてこの点には目をつぶることに致しましょう。

このレベルの英語を上達させるには、基本文型と基本単語をいかに増やすかが鍵となります。ここで昔ながらの、机に向かい、暗記帳を広げて、基本文を書いたり、口に出して発音したりしながら、一生懸命覚えるとなると、根気のいる退屈な作業になってしまいます。そこでよく導入されるのが、記憶する英語を実際に用い、手振り、身振りを交えながら、実地経験として体で覚えてゆく方法です。このような「実践会話」は、最近では「A」による学校の授業でも取り入れられていますし、英会話学校が通常用いているものです。また、このレベルの学習では「聞き流し」も、用い方次第で十分な効果を挙げることができま

げることができます。

「実践会話」は仲間と共に行うので、学習意欲を継続しやすく、「聞き流し」は「ながら」で行えるので、場所や時間にさほどとらわれず学習を継続できます。ただし、学習方法としてはお勧めできません。ただし、どちらの場合も、お膳立てや仕上げなしでは本当の効果は期待できません。たとえば、「実践会話」を有効にするには、(1) 会話のスキットで使われる英文をあらかじめ頭に入れて、その英文を体得できるように、スキットを実演するか、あるいは、(2) 自由会話を通して新たに学んだ英文を書き出し、復習を通して使用できる表現を増やしてゆくか、が考えられます。これは、自分が使用している英文を着実に身に付けるためには不可欠です。特に、「実践会話」では手振り・身振りで意志が通じてしまいがちなので、正確な会話を行えるよう、使用する英文に曖昧な点を残さないことが英語力を伸ばす要となります。

「聞き流し」の場合も同様です。「聞き流し」教材のなかには、英文だけで

なく、その説明や日本語訳までを含めて聞き流せるものも準備されていますが、やはり「聞き流し」学習に入る前に、テキストで内容を確認し、その文章の意味だけでなく、どうしてそういう意味になるのか、ひとつひとつの単語の意味を調べたり、構文を理解したりしておく方が、学習効果が上がります。というのも、この理解が十分できているほうが、耳に入ってくる英文が意味を形成しやすいからです。また、単に聞き流すだけでなく、耳で聞いたものをできるだけ口に出してなぞることとで、より一層の効果が期待できます。



このように、「実践会話」であれ、「聞き流し」であれ、楽しんでばかりで、楽に学べるという学習方法ではありません。テキストの助けを借りながら、繰り返し、単語や文章を記憶する不断の努力はやはり欠かせないものです。もともと、このレベルの英語は構文が単純ですので、自分で辞書を引いて、語法を確かめながら文意を探るといった面倒な作業は不要です。しかも、大概の場合、会話スキットや基本文型

にはあらかじめ日本語の意味が付されていますから、それを手がかりに、文の構造をなぞることも可能で、机にかじりついて勉強するといった辛い作業にはならないでしょう。

ただ、ごく簡単ではあれ、文の構造だけ踏まえておきましょう。というのも、そうしておけば学んだ基本文型を自分流にアレンジし、自分が使える表現を増やしてゆくことができるからです。これが英語力のさらなるアップに繋がります。

Will you open the window?

たとえば、「Will you open the window?」という基本文を学んだ場合、「Will you ~?」が、「...してもらえませんか」と、ものを頼む表現であることは覚えておきましょう。そのうえで、「実践会話」や「聞き流し」のスキットで挙げられた例文とその応用に留まらず、自身の日常に当てはめて、実際にこの構文が使える場面をいろいろ考えます。日常英会話をできるだけ早く身に付けるコツは、英語で話す「必要性」を増やすことです。テキストが示す「Will you ~?」の例文は、「知識」

に留まりますが、それを身近な「必要性」の高い文章に変換し、記憶しておけば、日常で口にする機会も多く、いざという時にすぐに役立つ「生きた英語」になります。

ところで、学んだ基本文型を、実際に使用できる日常表現に替えたくとも、語彙が足りないと思われるかもしれません。そのときは面倒がらず、Google や Yahoo の翻訳機能、あるいは「英辞郎」のような、無料のインターネットのサービスを積極的に活用し、語彙を増やしていただください。これが「使える英語」の幅をぐんと広げてくれます。こうした無料サービスは、日常会話レベルの短い定型文や、英単語・英熟語を探す場合には、かなり有効に機能します。もともと、求める文章全体を答えさせようとすれば、機械的に語を置き換えただけの、不自然な英語になりますから、ご用心下さい。学んだ基本文型を援用するために必要な単語や短い熟語を覚えてもらう、という限定した使い方が賢明です。

こうして学んだ基本文型のバリエーションは、機会があるごとに積極的に

使いましょう。生活に密着した「生きた英語」は使うことでさらに定着してゆきますし、日常生活で英語が使えるという自信にもつながり、英語学習への意欲を刺激してくれるはずです。また、こうした応用はねずみ算的に増殖しますので、手間を惜しまず、例文を積極的に運用し、増やしていきましょう。

3. 辞書を使いこなす

さてここからは、日常会話レベルの英語に留まらず、少しずつでも正確な英語の運用能力を身に付けてゆきたいと考える方への、学習アドバイスです。定型文の活用、援用が中心の日常会話レベルの英語では、辞書も電子辞書やインターネット辞書で十分ですが、より高いレベルの英語を習得しようという人であれば、せめて自宅では紙の辞書を、それも最低でも中辞典、できれば大辞典を引く習慣を付けてもらいたいと思います。というのも、辞書に示される訳語は代表的なものでしかなく、極めて不完全だからです。

日本語と英語は文化的、歴史的背景や性格が非常に異なっており、ほとんどの場合、語句の意味やニュアンスが完全には一致しません。むしろ、完全に一致する語句は例外的で、特殊な言葉といえます。一人称を示す「I」ひとつをとっても、辞書では「わたしは(が)」、「ぼくは(が)」くらいしか出ていないでしょうが、状況によっては、「俺」にも、「あたい」にも、「我が輩」にも、「おいら」にもなる。そして、訳し方ひとつで文のニュアンスがずつかり変わってきます。ですから、「辞書を引く」ということは、辞書が提示している訳語から最適なものを見つけないことではありません。辞書に載っている例文をよく読み、調べている英単語が「どのような形で使われ、どのような内容を表現するかを確かめる」こと、そして、「その表現の広がり」のなかで、文意にもっともふさわしい訳語を自身の語彙から探します」ことです。そのような訳語を見つけることができますし、英文も十分に理解できていますし、そうした過程で学び取った単語の意味の幅や広がり

こそが、あなたの英語の知識を豊かにし、英語力を高めてくれるのです。ひとつ例を挙げてみましょう。

heart and mind

辞書に出てくる「heart」の最初の訳語は大抵、「心臓、心」です。一方、「mind」の方も、「心、精神」といった訳語が冒頭に置かれています。学生たちの単語理解もこの程度ですから、彼らにこの熟語を訳させると、よく返ってくる解答は、「心と精神」です。そこで、「心」と「精神」の意味の違いを問いますと、十中八九、明確に答えられません。つまり、訳語として「心と心」ではさすがにおかしいので、言葉を変えたというだけで、「heart」と「mind」の意味の違いを十分理解しないまま、単に日本語を当てているだけなのです。

ここで中辞典以上の辞書を参考にし、辞書の下の方の意味や、例文を良く読めば、「heart」は心の働きのうち情感に深く関わり、「mind」は知的活動に重きをおいていることがわかります。

従って、"heart and mind" のように並列された場合、"heart" と "mind" の相異なる役割を明確に示す、「感性と知性」、あるいは「知と情」といった訳の方が、英文の内容をよりの確に示していると言えます。

このような単語の意味の広がりや理解しておくことは、極めて重要だと思います。このように、こうした広がりや知らなければ、「感性と知性」を英語で言うとしたとき、和英辞典の冒頭に出てくる単語「感性」|| "sensitivity"、「知性」|| "intelligence"、をそのまま使えば、それらの単語の並列が必ずしも馴染んだ英語になっていないことに気付かずに終わってしまうからです。

もうひとつ例を挙げてみましょう。

上の一文は、アイルランドで英国に対する闘争が絶えなかった頃、暴力に走るアイルランドの若者たちを見て、年配のアイルランド婦人が漏らした言葉です。

These days, young people are heartless.

この文章を紹介したのは、ロバート・リンドという、ロンド

ンを拠点に、Y.Y. というペンネームで社説などを書いていたアイルランド生まれのジャーナリストです。Y.Y. は "two Ys (トゥー・ワイズ)" と読み、"too wise (賢すぎること)" と掛けられているように、彼の間観察には多分にウィットが効いていました。上述の文章においても、リンドはそれを口にした年配のアイルランド婦人が、若者たちの暴力的行為を非難していたのではない点を指摘し、苦笑いを誘いながら、故郷アイルランドの人々が英国に対して抱く敵愾心のすさまじさを英国の読者に伝えています。

さて、ここで再び質問です。リンドが笑いを引き出せたのは、上述の言葉が通常とは正反対の意味で使われているからですが、このもう一方の意味とは何でしょうか。

目の前で乱暴な事件が起きているわけですから、心優しい女性には、一般的な解釈、「この頃の若い人ときたら、なんてひどいことをするのでしょうか」と、言うて欲しいところです。ところが、このアイルランド婦人は若者たち

の攻撃が手ぬるいと批判して、「この頃の若者は意気地がないわ」と嘆いていたということです。表現の落差をもたらしているのは "heartless" です。辞書を引けば、"heartless" の一般的な用法は、「薄情な、冷酷な」となっているでしょう。しかし、辞書をよく読めば、古い用法としての「熱意のない、元気のない」という意味も見出せるでしょうし、"heart" + "less" という語源から探れば、「熱意」が「欠けた」という、後者の文意が推測できるはず

です。

このように、一見簡単に見える単語ひとつでも、様々な意味を併せ持っています。ですから用法の説明や例文の少ない辞書は、良い辞書とは言えません。たとえば中学校で学ぶ英語が簡単なものであっても、それなら辞書も簡便なものでも良いだろうと考えるのは浅いことです。簡単な単語であれ、その使用頻度が高ければ高いほど、意味のバリエーションは多くなります。これは、動詞の活用において、よく使う動詞ほど不規則活用が多いことから容易に

推察できます。それ故、英語を本当にものにしたいのであれば、中辞典以上の辞書を使って頂きたいし、もし身近に英語を習い始めようとしておられるお子さんやお孫さんがいらっしゃるなら、辞書は最初から、せめて中辞典レベルのものを持つように、また調べた単語については、用例や説明をよく読むように、ご指導頂きたいのです。

英和中辞典として良く知られているものは、三種類ほどです。それぞれ、語の用法に重きを置いているもの、語彙数に重きを置いているものと、出版社によって特徴が異なりますが、英語初習者には、例文が豊富で用法を丁寧に説明してくれているものをお勧めします。そういうものであれば、国立大学の教養英語レベルまで使えます。また、話題や文意が一般的であれば、上級レベルの英会話や英語の書物にも十分に対応できます。そのうえで、もし英語関係の専門を学ぶとか、英語を使った仕事に就くとかいう場合は、適宜、大辞典に替えたり、語彙数の多い中辞典や専門用語辞典を付け足したりして頂

ければよいでしょう。

電子辞書については、持ち運びが便利ですので、出先で用いるのは構いません。手元にいつも電子辞書を持っていて、必要が生じたらすぐに辞書を引く癖をつけられれば、それなりに良い効果も期待できます。また、紙の辞書の重みに学び、そうした経験を積んで、すでに英語がかなり使えるようになった人で、単語の用法を見る必要がないことを見極めた場合には、その単語をコンピュータの辞書ソフトやインターネットの辞書機能で優先的に調べることは、時間の節約にもなります。特に、時事的な英単語や固有名詞、外来語や特殊表現など、かつては様々な辞書にあたって意味を探し出さなければならなかったものが、インターネット検索で簡単に意味を知ることができるようになりました。そうした限られた明確な目的のためであれば、新しいツールを積極的に利用してください。

ただし、英語初習者の場合、自宅でやはり紙の辞書を使うべきです。短期的には紙の辞書を引くほうが余分の手間がかかりますし、必要な解答を探しだすために用法を調べ、例文を読む時間も無駄に感じられるかもしれません。しかし、人の眼は、電子辞書の画面やコンピュータの画面をスクロールしながら得られる情報よりもはるかに多くの情報を、繰られる紙の頁から短時間で取り込むことができますし、こうして得られる辞書情報が、辞書が示す訳語では表されない単語の意味の広がりや、正確な用法を身に付けさせてくれ、上級英語の土台を築きあげてゆきます。従って、長い眼で見れば、この方法の方がもっとも確実に英語力を伸ばすものなのです。

さらに、英語上級者でも、単語の持ち味やニュアンス、意味のバリエーションを探りたい場合や、語法を調べたい場合など、多くの情報の中から何かを探し求めようとするなら、やはり一目で多くの情報を取り入れられる紙の辞書の方が効果的で、時間も節約できます。

(11月号に続く)